

富士山頂も9日調査

観測・研究計画を発表

を会
所
候
活
用
す
る

NPO法人「富士山測候所を活用する会」(理事長・畠山史郎東京農工大教授)は4日、今夏の観測・研究計画を都内で発表した。独立行政法人「放射線医学総合研究所」(千葉市)の研究チームが9日、東日本大震災に伴う福島第1原発の事故を受け、富士山の山頂

などで環境放射線測定を行うことを明らかにした。同NPOによると、環境放射線測定を行うのは同研究所・放射線防護研究センターの保田浩志チームリーダーの班。これまでも富士山頂で宇宙線被ばく線量の測定を行ってきたが、福島原発事故

後に登山関係者から「富士山は大丈夫か」との不安の声が寄せられたこともあり、地上由来の放射線測定を初めて実施することになった。9日は早朝から夕刻までの約12時間にわたり、吉田口5合目(標高約2400m)から山頂までの登山道で、携帯可能な測定装置を使ってガンマ線スペクトルを測り、主な放射性核種や空間線量を測定する。ただ、天候によっては測定作業を延期、中止する可能性もあるという。

畠山理事長らは「お茶への影響が広範囲に及んでいることから、放射性物質は気流に乗って拡散している。富士山という「タワー」を使えば、上下方向の分布データを得ることができるともいえないし、もし影響が分かれば、何らかの警報発信を考えたい」とした。

県内で観測された最大放射線量

最大値と観測した時間帯 (3日午後5時～4日午後5時の間)	
静岡市	0.0423 (3日午後10～11時) (3日午後11時～4日午前0時)
下田市	0.0483 (3日午後5～6時)
沼津市	0.0427 (4日正午～午後1時)
磐田市	0.0450 (4日午後10～11時)

(県調べ、単位はマイクロシーベルト毎時)
観測結果は2007～09年度までの文部科学省による全国の環境放射能水準調査の結果の範囲内で、健康への影響を心配する必要はないレベル
マイクロシーベルト毎時は人が受ける1時間当たりの放射線
静岡市の過去の変動幅は0.0281～0.0765マイクロシーベルト毎時
※水道水は毎週火曜日の測定

加する見込み。
同NPOが気象庁から同測候所の一部を借り受けて進めている活動は、今夏で5年目を迎える。